

# 国際戦略経営研究学会

*The International Academy of Strategic Management*

## NEWSLETTER VOL.7.No2

2018/5/26



### (内容)

- 1 第11回年次大会・研究発表大会のご案内
- 2 編集委員会からのお知らせ
- 3 事務局からのお知らせ

## 1 第11回年次大会・研究発表大会のご案内

国際戦略経営研究学会第11回年次大会・研究発表大会が下記の要領で開催予定ですので、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

第11回大会委員長 安部 博文

### ■ 開催校と開催日

開催場所：電気通信大学（東京都調布市）

開催日：2018年9月8日（土）～9日（日）

### ■ 統一テーマについて

統一テーマは、「AI時代の戦略経営」です。研究発表は前回大会と同様、統一テーマに関するものと自由論題による発表の2つのタイプから構成されます。統一テーマの趣旨は下記の通りですが、自由論題を設けることからご理解いただけますように、研究発表の内容に制約を課すものではありません。

本年度は第11回大会となります。これは、本学会が新たな10年に向けてスタートする大会であることを意味します。これまでの大会を通して、創立の理念である「戦略経営」の理論の構築、その普及による企業活動への貢献に努め、成果を上げてきたと思います。しかし、理論構築および企業活動への普及に関しては、なお取り組みの途上であるといえます。とりわけ理論と企業活動にとっては、IoT、ビッグデータ、そしてAIに象徴される各種の技術革新の加速、政治・経済その他の要因で不確実性は高まりこそすれ、安定化には程遠い環境です。

こうしたダイナミックに変化する環境下に置かれている企業の存続と成長に資するため、本学会には一層の努力と貢献が求められています。そこで、第11回大会ではIoT・ビッグデータ・AIに代表される新時代を象徴的にとらえ、「AI時代の戦略経営」をテーマに、みなさんと共に考えたいと思います。

デジタルビジネスを活用して急成長してきた企業は、創業者のビジョンを共有しながら、トライアンドエラーを何回も繰り返して成長しています。過去に成功体験のある企業ほど苦戦している背景には、そのようなベンチャースピリットの不足があるではないでしょうか。

今後訪れる本格的なAI活用時代における戦略経営には、創業の精神を大切にしながらも、環境の変化を感じ取り、戦略を転換してチャレンジし続けるスピリットが必要です。

以上が統一テーマの趣旨ですが、第11回大会となる本年度のテーマは、本学会創設の原点に立ち返ります。

本大会では、戦略経営とは何かを再確認するとともに、タービュラントで不確実な経営環境で成長を続けるには何が必要かを考えたいと思います。

学会活動のさらなる活発化と、新時代の企業の競争力向上にも貢献できると考え、多くの会員諸氏の積極的な参加を期待しております。

## ■ 発表形態

研究発表は、統一テーマに関する発表と自由論題に関する発表の 2 つのタイプから構成されます。いずれの発表も英語、日本語のどちらでも可能です。

また、セッションは、統一テーマのセッション、自由論題のセッション、英語セッション、院生セッションを予定しておりますが、応募状況によってはどちらのセッションでご報告いただくかを大会実行委員会が検討させていただく場合がございますので、予めご承知ください。

## ■ 募集要領

### 1) 報告資格

当学会員であること

### 2) 報告スタイル (予定)

自由論題

報告 25 分、その後の質疑応答 15 分

院生セッション

報告 25 分、その後の質疑応答 15 分

英語セッション

報告 25 分、その後の質疑応答 15 分 すべて英語で実施されます。

### 3) 申込み方法：申し込みはすべて、今後開設される学会ホームページ大会サイトからお申し込みいただきます。

学会ホームページ大会サイトは 6 月 6 日開設予定です。

### 4) 報告要旨集用原稿の言語：英語での発表の場合は英文、日本語での発表の場合は和文。

### 5) 報告要旨集用原稿（日本語の場合）もしくは Formatting（英語の場合）のご提出も学会ホームページ大会サイトの申し込みから原稿を添付していただき、ご報告をお願いします。

尚、日本語の場合は「報告要旨用原稿」作成要領に、英語の場合は“Formatting Guidelines”にそれぞれ準拠したものを作成願います。また、報告要旨集用原稿（日本語）、Formatting Guidelines（英語）のいずれについてもサンプルを用意しました。それをテンプレートとして上書きすれば、ほぼ規定に準拠した原稿を作成できますので、できるだけご利用ください。（学会ホームページ TOP 「お知らせ」内、「第 11 回年次大会・研究発表大会のご案内」をご参照ください） <http://www.iasm.jp/>

6) 申込み期限：2018年7月6日（金）必着 注意：期間延長なし

（留意点）

本年度も、発表申し込み時に「報告要旨」も提出して頂くことになりましたので  
ご注意ください。

規定通りに作成された「報告要旨」を伴わない申し込みは受け付けられません。

7) 作成要領/guideline に準拠していない原稿に対しては、修正再提出をお願いしますが、  
お願いのメール受領後、1週間以内に作成規定に準拠した原稿が再提出されない場合には、  
申し込みを受け付けません。

■ 応募に関する注意事項

応募者は、報告の日程や時間帯等について指定することはできません。

■ 大会報告要旨タイトル変更の不可

大会委員会の審査を経て採択されたものについては、その後のタイトル変更は一切認められません。

■ 大会報告辞退の不可

報告として大会委員会の審査を経て採択されたものについては、辞退を認めません。

■ 発表・参加に関するお問い合わせ

confoll(at)iasm.jp (at)の場所に@をお入れください

## 2. 編集委員会からのお知らせ

### 2.1. JSMS(Journal of Strategic Management Studies 特集号の刊行のご案内(再))

編集委員会では、本年度、英文ジャーナルである JSMS (Journal of Strategic Management Studies) の Vol. 10, No. 1 (Sept. 2018 発行予定)」にて以下の要領で特集を組むことになりましたので、皆様の積極的な御投稿をお願い申し上げます。  
なお、本号から、JSMS は JSTAGE に掲載を検討中です。

(1) 特集テーマ「IoT とダイナミック・ケイパビリティ」

（趣旨）IoT 時代の到来を迎え、ダイナミック・ケイパビリティの実践的重要性が高まっており、逆にダイナミック・ケイパビリティ研究にとっても、その真価が問われようとしています。論文の具体的テーマとしては、

・IoT 事業で成功しつつあるダイナミック・ケイパビリティについて実証研究

- ・IoT 事業に必要（ないし有効）なダイナミック・ケイパビリティについての提案
  - ・IoT 事業の分析・処方にとって既存のダイナミック・ケイパビリティ論の有効性の検討、拡張/修正の必要性
- 等が考えられますが、その他、テーマに関係あれば何でも結構です。

(2) 原稿提出期限： 2018 年 6 月 15 日（金）

(3) 論文原稿の提出先： [editor@iasm.jp](mailto:editor@iasm.jp)

(4) 注意：通常の投稿と同じですが、特に次の点に注意してください。

- ・投稿原稿は JSMS の執筆要領（cf 下記 URL）に準拠して作成してください。

URL： [http://iasm.jp/english\\_activity5.html](http://iasm.jp/english_activity5.html)

- ・英語はかならずネイティブチェックを受けて下さい。
- ・投稿に関して不明点がございましたら、論文編集委員会（JSMS）委員長（中村）宛てにご連絡をお願いいたします。メールアドレスは下記です。

メールアドレス： [jyulis@shibaura-it.ac.jp](mailto:jyulis@shibaura-it.ac.jp)

## 2.2.「戦略経営ジャーナル」特集号論文募集のご案内

編集委員会では、電子ジャーナル「戦略経営ジャーナル」（Vol.7, No.1, Nov. 2018 発行予定）にて以下の要領で特集を組むことになりましたので、皆様の積極的なご投稿をお願い申し上げます。

(1) 特集テーマ「プラットフォーム戦略と日本的経営」

(要旨) IoT 化が進む中でトヨタが「e-Palette」、コマツが「LANDLOG」というプラットフォーム戦略を提唱しました。プラットフォームビジネスには、聴衆プラットフォーム（ソーシャルメディア等）、取引プラットフォーム（決済システム等）、マッチングプラットフォーム（チャールズ・シュワブ、Uber 等）、アプリケーションプラットフォーム（オペレーティングシステム）など様々なタイプが存在しますが、その水平分業型の産業構造やプラットフォーム参加者間（供給サイド顧客と需要サイド顧客）にネットワーク効果が働くなどの共通点が存在します。

日本的経営は擦り合わせ型ビジネスには適している一方、水平型ビジネスには適していないという指摘がなされていることから、プラットフォーム運営企業としての役割を遂行するには、その克服が必要だと考えられます。

また、このプラットフォーム上ではデバイスの機能とデバイス間の接続ルール、参加者間の取引ルールがプラットフォーム運営企業によって明示的に設定される事になり、参加企業の多くは PC やスマートフォン市場のような厳しいコストパフォーマンス競争に直面します。

本特集号では、プラットフォーム戦略を展開する上で、日本的経営が直面する諸問題の解決に資する実践的な成果を社会へ発信することを目的とし、下記の通り特集号論文を広く募集します。

(テーマ) 論文テーマとしては下記のようなものが考えられますが、プラットフォーム運営企業だけでなくプラットフォーム参加企業の観点も含む、プラットフォーム戦略展開に関わる様々なテーマの論文を幅広く募集いたします。

本特集では経営組織に対する学術・実践両面からの接近を企図し、学術的な理論構築、実証研究、レビュー論文だけでなく、実務的な視点によるケース論も歓迎します。奮ってご投稿ください。

- ・プラットフォーム戦略と日本的経営システムの適合性
- ・プラットフォーム運営企業の競争戦略
- ・プラットフォーム運営企業の成長戦略
- ・プラットフォーム運営企業の組織戦略
- ・プラットフォーム参加企業の競争戦略
- ・プラットフォーム参加企業の収益モデル
- ・プラットフォーム参加企業の Platform on Platform 戦略の KFS 等

(2) 原稿提出期限：2018 年 8 月 31 日（金）

(3) 論文原稿の提出先：[editor@iasm.jp](mailto:editor@iasm.jp)

(4) 投稿方法

通常の投稿と同様、「経営戦略ジャーナル」の執筆要領（下記 URL）に従って原稿を送付してください。

URL：<http://www.iasm.jp/activity5.html>

その際、特集号への投稿であることが分かるよう明記していただきますようお願いします。

### 3. 事務局からのお知らせ

#### (1) 会費納入のお願い

日頃より学会活動にご尽力いただきありがとうございます。学会活動は会員の皆様の会費がベースです。皆様には、本年度の学会費納入をお願いいたします。

過年度分の学会費が未納の場合には、今後発刊する学会誌が送付されません。また、会費を3年間滞納した場合には会則第8条第4号に基づいて会員資格が失われます。

以上をご留意の上、早期の会費納入につきましてご協力をお願いいたします。年会費は正会員8,000円、準会員(学生)5,000円です。指定口座は次のとおりです。

**銀行名 : ゆうちょ銀行 口座番号 : 00120-3-585264**

**口座名義 : 国際戦略経営研究学会**

なお、会費納入に当たっては必ずフルネームをご記入下さい。特に校費等で振込を行う場合など、大学から学会宛に直接振り込みが行われる際にはご注意下さい。

#### (2) 住所等変更の際のご連絡のお願い

所属・ご住所・メールアドレス等を変更された方は、速やかに学会事務局までご連絡ください。

準会員で入会された方も、学生の身分を離れた場合には正会員になりますので、学会事務局までお申し出下さい。

#### (3) 活気溢れる学会運営のため、お知り合いの方には是非当学会への入会をお勧め下さい。ご不明の点がありましたら、下記学会事務局までお問い合わせください。

#####

#### 国際戦略経営研究学会 (IASM)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

国際戦略経営研究学会 (IASM)

TEL : 03-5937-0470 FAX : 03-3368-2822

secretariat(at)iasm.jp (at)の場所に@をお入れください)

#####

写真 : 福島県 只見線